

公表

事業所における自己評価結果

事業所名 児童発達支援・放課後等デイサービス ステラ

公表日 令和 8年 3月 27日

利用児童数
15名

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6		児童が遊びの時、怪我等をしないよう、物の配置や周りの人への配慮を行っている	
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6		職員の配置数も適切で児童は安全に過ごす事ができている	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6		・完全なバリアフリーとはなっていないが、物の配置や、見えやすいテープなどで目印を示す等して、安全の配慮を行っている ・段差等、声掛けや注意を払いながら丁寧な見守りを意識している ・各所に絵や文字を使用し視覚化を行っている	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6		・毎日、児童が帰宅後に掃除・消毒を行っている ・室内で軽めの運動なら十分にできるスペースを確保している。自由時間では、児童たちが楽しみながら過ごすこともできている	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6		・個別の対応が必要な場合等、静養室等の個室を使用する事もある	
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6		毎朝、スタッフミーティングにて、報連相と共に各々の業務を共有を図っている	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		保護者からの評価は真摯に受け止め、改善点に関しても積極的に検討している	これまで保護者から意見の多かった、事業所の広さについての改善を図る為、広めのスペースが確保できる場所への移転を実施する
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6		・毎朝、スタッフミーティングにて、各々意見等の共有を行っている ・朝礼だけでなく、朝の準備時間等でコミュニケーションを取り、意見の把握を行い、常に改善に繋げられるように努めている	
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	1	5		第三者による外部評価の導入を前向きに検討していく
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6		・毎月、法人内で色々なテーマに沿って社内研修を実施している ・外部研修の案内もある	
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6			
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	6			

適切な支援の提供	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6				
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		・個別支援計画書は、児発管からの共有があり、スタッフ全員が把握できている為、計画に沿った支援の提供がなされている		
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6				
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		スタッフミーティングを通し、対象となる児童への支援内容がしっかりと話し合いができています		
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		・毎月1回、スタッフ全体で相談しながら活動内容を立案している ・一人で考え込まず、色々な視点からのアドバイスをもらいながら、チームで立案ができています		
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		・固定化しないよう全体で助言・提案を行いながら工夫を行っている ・OT、STのスタッフを交えて、様々な視点からの活動を考えている ・児童達が楽しく、飽きないような活動を立てており、内容には常に工夫を取り入れている	更に良くしていく為の意識を怠らずに工夫を継続していく	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		活動は、基本的に全員で行うが、専門的支援等で個別の内容に取り組むこともある		
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		毎朝のスタッフミーティングにて、前日及び当日の支援内容の確認、共有を行っている		
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		帰りの送迎後、急ぎの内容等を振り返っている。そうでなくても、毎朝全員で朝礼、ミーティングの中で共有を図っている		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		・毎日、児童一人一人の記録を漏れなく取っている ・個別で利用児について記録を取り、検証・改善に繋げている		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		・時期は個人や課題内容に異なるが、3~6カ月に1回、必ずモニタリングを実施している ・適切なアセスメントの元、計画の見直しもしている		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ合わせて支援を行っているか。	6		4つの基本活動を含め、5領域へ着目し、楽しみながら参加できる効果的な活動内容の提供を行っている		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		・生活の中での様々な状況を想定し、SST等で自己選択や自己発信の練習を行っている ・選択肢を視覚化したり、好きな物を選んで取り組める環境作りをしている ・自己選択させつつも、選択で生じる責任についても伝えながら支援を行っている		

関係機関 や保護者との 連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		管理者、児発管が中心となって参加している。午前中であれば、指導員や専門職の参加もある	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		学校の担任、ヘルパー等と、学校や事業所での出来事や様子等を共有している。学校とは、細かな連携が取れるようスタッフ一人一人が意識している	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		・年度始め、担任への挨拶、迎え場所の確認、年間行事等の確認を行っている。日常では、下校時間の変更等に細かく対応できるよう、常に鮮度の高い情報交換を意識している ・情報共有を行っていき、気になる事があれば積極的に学校に質問を行っている	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	4	同法人内に高学年を対象とした放デイがある為、そちらへ移行する際は相互で密な情報交換を行っている	在籍している児童が主に低学年の為、学校卒業という大きな節目による移行の経験がない
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	6		自治体が委託している児童発達支援センターとは、管理者を中心に定期的な関わりや情報交換を行っている	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	6		活動の「地域交流」の際、児童センターを利用する地域子ども達と一緒に遊ぶ関わりがある ・学童等と一緒に夏祭りを開催し、地域の方々と一緒に楽しむこともできた	
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	6		管理者が自立支援協議会が運営する子ども支援部会のメンバーとして参加している	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		・利用時、帰りの送迎の際、保護者へその日の出来事の申し送りやLINE等で共有を行っている ・保護者に伝える内容について、職員の独断だけでなく、管理者も一体的になり日々の申し送りや、保護者とのLINEによる報告を行っている	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	5	・ペアトレの実施には至っていないが、全保護者向けに情報提供の場として「活動報告会」の開催を検討中。次年度内では実施ができるよう取り組んでいく ・保護者からの質問等に管理者が中心となり、回答や助言を行っている。モニタリング、送迎時の申し送り等、様々な場面で療育に関する話を行うことが多い	・児童の成長に伴い、支援の思い、見えている課題等を含め、家族へ伝えたりすること、関わり方へのアドバイス等、情報共有の場を積極的に設けていく事を考える ・必要性のある家族もいるので、スタッフ間での共有のみならず、家族への共有や関わり方のアドバイス等の機会を設けていきたい
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6				
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6				
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6				
39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		・保護者から、家族や兄妹に関する悩みや相談を受ける事が多い印象。管理者が対応し、その後全体で共有を行っている		

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・父母の会自体はないものの、保護者間が交流できる機会や場を設けている ・年1回、保護者会として「親子バーベキュー会」を行い、保護者間、スタッフが交流する機会を設けている 	・行っているが、回数が少ないと感じている。あと1, 2回、保護者が参加できる行事を計画していきたい
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6		<ul style="list-style-type: none"> ・紙媒体で活動等の日課に関する発信を行い、LINEを使用して、情報や日々の様子について伝えている ・Instagramを活用し、外部にも事業所の様子を発信している 	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		SNSを活用する際、個人が特定されないような配慮を行っている	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6		LINEや口頭にて、個人にあった情報伝達を行っている	
非常時等の対応	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		今夏、ステラ主催の夏祭りを児童センターを活用しながら地域と合同で実施	更に開けた事業所となっていけるよう、地域の行事にも積極的に参加していく。事業所も子ども達も地域の一員としての意識を芽生え、根付かせられるよう努めていく
	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	1	年2回、児童も一緒に地震・津波、火災の避難訓練を行っている。スタッフのみでは、自治体が開催する大規模な訓練にも参加している	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		実際の状況を想定して、避難までの時間を測ったり、一つ一つの行動確認がスタッフ間、児童とできている	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		定期的にヒヤリハットの共有を行い、事故防止、再発防止に向けた取り組みを行っている	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		様々なテーマで虐待防止研修を積極的に取り入れ、全体で虐待防止に対する知識や理解に繋げている	
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		これまで身体拘束の事案の発生なし	